

## 令和5年度 近畿大阪高等学校学校評価

### 1 建学の精神と本校の教育目的

#### 建学の精神

教育の目的は 人に愛される人 信頼される人 尊敬される人 を育成することにある

#### 本校の教育目的

生命に対して深い畏敬の念や、社会人としての豊かな人間性と良識を持ち、広い世界観を持って社会に貢献する人材育成を目的とする。

- 1) 学業と仕事を両立し、社会を生き抜く力を育成する。
- 2) 他者の個性・特性を理解・尊重し、自己肯定感を育てる。
- 3) 社会に対する深い洞察力を身につけ、自ら将来を切り拓く力を育成する。

### 2 中期的目標

- 1 生徒の実態に応じた教育システムを確立する。
  - (1) 生徒並びに保護者が、相談しやすい環境を整備する。
  - (2) レポート等わからない問題について、気軽に質問しやすい環境を整える。
- 2 「確かな学力」を身に付けた上で、高校卒業資格を取得できるよう支援する。
  - (1) 各年次段階に応じて「確かな学力」を身に付けさせる。
  - (2) 進路指導体制の強化により、進路実績の向上をめざす。
- 3 人権教育等を通して心の教育の充実に努める。
  - (1) 他者の長所と短所を受け入れ、個性等を理解する力を育成し、自己肯定感を高める。
  - (2) すべての命を大切にす教育を行う。
- 4 通学意欲を喚起し、生徒間の親睦並びに相互交流を促す。
  - (1) 生徒が、興味関心のある多様なトライアルアワーの開講に努める。
  - (2) 学校行事を通し、仲間意識の涵養に努める。
- 5 情報発信・広報活動の充実に努める。
  - (1) 生徒・保護者への、情報発信並びに情報共有に努める。
  - (2) 本校の教育活動を、近隣中学校に限らず、広く紹介出来る様な広報活動に努める。
- 6 安心して学校生活を送れる様、最大限の配慮をする。
  - (1) 防犯・防災教育の充実に努める。
  - (2) 安心・安全の学校生活と相談体制の充実に努める。

### [自己評価アンケートの結果と分析]

#### 自己評価アンケートの結果と分析 [令和6年3月実施分]

##### 【概括】

令和5年度の開校当初、26名（1年次生20名・2年次生6名）の生徒数であった。12月まで転編入で毎月生徒数が増加して、年度末には、54名（1年次生34名・2年次生20名）の生徒数になった。初年度ということもあり、個別の生徒対応に追われ、教科学習に十分な時間をさけたわけではない。それにもかかわらず、きめ細かい生徒対応（カウンセリングマインドを持って、生徒に寄り添う対応）を心掛けた結果、生徒並びに保護者の学校に対する満足度は、想定以上のものを得られた1年であった。

##### 【アンケート結果について】

回答の依頼を複数回行うなどアンケート回収に努めたものの、アンケート回収率が生徒・保護者ともに52%に留まったが、アンケート結果としては、生徒・保護者とも、本校の教育活動に対しおおむね満足をしている結果を得ることができた。

評価指標を下回った取り組みについては、2年目以降改善することが、当面の課題であると認識している。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 生徒の実態に応じた教育システムを確立する</p>	<p>(1) 生徒並びに保護者が、相談しやすい環境を整備する。</p> <p>(2) レポート等わからない問題について、気軽に質問しやすい環境を整える。</p>	<p>・生徒支援と生徒並びに保護者への相談体制の強化・充実に努める。</p> <p>・レポートに限らず、生徒がわからない問題がある場合、質問しやすい環境を整える。</p>	<p>ア. 生徒向けアンケート「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる。」の肯定的評価70%以上をめざす。</p> <p>イ. 生徒向けアンケート「先生は生徒の意見を聞いてくれる。」の肯定的評価70%以上をめざす。</p> <p>ウ. 保護者向けアンケート「先生は、生徒の意見を聞いてくれて、子どもを理解している。」の肯定的評価70%以上をめざす。</p> <p>ア. 生徒向けアンケート「授業が分かりやすく学校に行くのが楽しい。」の肯定的評価80%以上をめざす。</p> <p>イ. 保護者向けアンケート「子どもは、授業が分かりやすく、学校に行くのが楽しいと言っている。」の肯定的評価70%以上をめざす。</p>	<p>ア. 生徒向けアンケート「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる。」の肯定的評価76.9%であった。(○)</p> <p>イ. 生徒向けアンケート「先生は生徒の意見を聞いてくれる。」の肯定的評価100%であった。(◎)</p> <p>ウ. 保護者向けアンケート「先生は、生徒の意見を聞いてくれて、子どもを理解している。」の肯定的評価92.8%であった。(◎)</p> <p>ア. 生徒向けアンケート「授業が分かりやすく学校に行くのが楽しい。」の肯定的評価80.8%であった。(○)</p> <p>イ. 保護者向けアンケート「子どもは、授業が分かりやすく、学校に行くのが楽しいと言っている。」の肯定的評価64.3%であった。(△)</p>
<p>2 「確かな学力」を身に付けた上で、高校卒業資格を取得できるよう支援する</p>	<p>(1) 各年次段階に応じて「確かな学力」を身に付けさせる。</p> <p>(2) 進路指導内容の充実により、進路実績の向上をめざす。</p>	<p>・卒業後の進路を各自で思い描けるよう、「確かな学力」を身に付けさせる。</p> <p>・進路指導部会を通し、進路指導内容の充実を図る。</p>	<p>ア. 生徒向けアンケート「教え方に工夫をしている先生が多い。」の肯定的評価80%以上をめざす。</p> <p>イ. 生徒向けアンケート「選択科目の時間は工夫されていて、自分が学びたいことがらを選べる。」の肯定的評価80%以上をめざす。</p> <p>ア. 生徒向けアンケート「学校は、進路についての情報を知らせてくれる。」の肯定的評価70%以上をめざす。</p> <p>イ. 保護者向けアンケート「学校は、将来の進路や職業について適切な指導を行っている。」の肯定的評価70%以上をめざす。</p> <p>ウ. 保護者向けアンケート「学校は、進路に関して、家庭への連絡や適切な情報提供を行っている。」の肯定的評価70%以上をめざす。</p>	<p>ア. 生徒向けアンケート「教え方に工夫をしている先生が多い。」の肯定的評価84.6%であった。(○)</p> <p>イ. 生徒向けアンケート「選択科目の時間は工夫されていて、自分が学びたいことがらを選べる。」の肯定的評価88.4%であった。(○)</p> <p>ア. 生徒向けアンケート「学校は、進路についての情報を知らせてくれる。」の肯定的評価92.3%であった。(◎)</p> <p>イ. 保護者向けアンケート「学校は、将来の進路や職業について適切な指導を行っている。」の肯定的評価75.0%であった。(○)</p> <p>ウ. 保護者向けアンケート「学校は、進路に関して、家庭への連絡や適切な情報提供を行っている。」の肯定的評価67.9%であった。(△)</p>

<p>3 人権教育等を通して心の教育の充実に努める</p>	<p>(1) 他者の長所と短所を受け入れ、個性等を理解する力を育成し、自己肯定感を高める。</p> <p>(2) すべての命を大切にす教育を行う。</p>	<p>・地域交流等を通して自己肯定感を高め、他者を尊重する姿勢を身に着けさせる。</p> <p>・LHR等を活用し、互いの人権を尊重することの大切さを理解させる。</p>	<p>ア. 生徒の要望に応え、地域と協力して文化祭を開催する。</p> <p>ア. 保護者向けアンケート「学校は、子どもに命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」の肯定的評価70%以上をめざす。</p> <p>イ. LHRを活用し、インターネットと人権について学習する。</p>	<p>ア. 入学時に実施した生徒アンケートで、生徒の要望が多かった文化祭を「潮騒祭」という名称で、9月23日に実施した。地域住民の方々にも、学校を認知していただく良い機会として、企画にも協力いただき、大盛況で終えることができた。(◎)</p> <p>ア. 保護者向けアンケート「学校は、子どもに命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」の肯定的評価82.1%であった。(◎)</p> <p>イ. LHRを活用し、すべての学年で、「インターネットと人権について」学習した。(○)</p>
<p>4 通学意欲を喚起し、生徒間の親睦並びに相互交流を促す</p>	<p>(1) 生徒が、興味関心のある多様なトライアルアワーの開講に努める。</p> <p>(2) 学校行事を通し、仲間意識の涵養に努める。</p>	<p>・生徒にアンケートを実施し、興味のあるトライアルアワー等を企画する。</p> <p>・スポーツ大会や文化祭など各種行事を通して、生徒間の交流を深め、仲間意識の涵養に努める。</p>	<p>ア. 生徒向けアンケート「トライアルアワーに積極的に取り組んでいる。」の肯定的評価70%以上をめざす。</p> <p>ア. 生徒向けアンケート「学園祭や校外学習などの行事は、楽しく行えるよう工夫されている。」の肯定的評価70%以上をめざす。</p> <p>イ. 保護者向けアンケート「学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしている。」の肯定的評価70%以上をめざす。</p>	<p>ア. 生徒向けアンケート「トライアルアワーに積極的に取り組んでいる。」の肯定的評価73.1%であった。(○)</p> <p>ア. 生徒向けアンケート「学園祭や校外学習などの行事は、楽しく行えるよう工夫されている。」の肯定的評価92.3%であった。(◎)</p> <p>イ. 保護者向けアンケート「学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしている。」の肯定的評価85.7%であった。(◎)</p>

<p>5 情報発信・広報活動に充実に努める</p>	<p>(1) 生徒・保護者への、情報発信並びに情報共有に努める。</p> <p>(2) 本校の教育活動を、近隣中学校に限らず、広く紹介出来る様な広報活動に努める。</p>	<p>・学校ホームページ、個人メール、チャット等を活用し、生徒だけでなく保護者への情報発信並びに情報共有に努める。</p> <p>・中学校訪問や教育相談会を活用し、本校の教育活動の理解の輪を広げるよう努力する。</p>	<p>ア. 生徒向けアンケート「評価の仕方や基準について、事前に示されており、学習の評価については、納得できる。」の肯定的評価 80%以上をめざす。</p> <p>イ. 生徒向けアンケート「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる。」の肯定的評価 70%以上をめざす。</p> <p>ウ. 生徒向けアンケート「学校からの連絡をきちんと確認している。」の肯定的評価 80%以上をめざす。</p> <p>エ. 保護者向けアンケート「学校は、教育方針を分かりやすく伝えている。」の肯定的評価 80%以上をめざす。</p> <p>オ. 保護者向けアンケート「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている。」の肯定的評価 70%以上をめざす。</p> <p>ア. 中学校訪問を 50 校以上実施する。</p> <p>イ. オープンスクールをはじめ教育相談会を 10 回程度開催する。</p>	<p>ア. 生徒向けアンケート「評価の仕方や基準について、事前に示されており、学習の評価については、納得できる。」の肯定的評価 96.2%であった。(◎)</p> <p>イ. 生徒向けアンケート「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる。」の肯定的評価 57.7%であった。(△)</p> <p>ウ. 生徒向けアンケート「学校からの連絡をきちんと確認している。」の肯定的評価 84.7%であった。(○)</p> <p>エ. 保護者向けアンケート「学校は、教育方針を分かりやすく伝えている。」の肯定的評価 85.7%であった。(○)</p> <p>オ. 保護者向けアンケート「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている。」の肯定的評価 89.3%であった。(◎)</p> <p>ア. 53 校の中学校訪問を実施した。(◎)</p> <p>イ. オープンスクール 10 回、合同教育相談会 7 回、教育相談を随時開催した。(◎)</p>
<p>6 安心して学校生活を送れるよう最大限の配慮をする</p>	<p>(1) 防犯・防災教育の充実を図る。</p> <p>(2) 安心・安全の学校生活と相談体制の充実と強化を図る。</p>	<p>・避難訓練をはじめ、災害時に適切に対応できる防犯・防災教育を実施する。</p> <p>・スクールカウンセラーや公認心理師との連携を図る。また、養護教諭が常駐することにより、生徒がより安心して学校生活を送れるようにする。</p>	<p>ア. 生徒向けアンケート「学校で事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか、知らされている。」の肯定的評価 70%以上をめざす。</p> <p>イ. 保護者向けアンケート「地震や台風などの場合の対応については、子どもや保護者に行動マニュアルが知らされている。」の肯定的評価 70%以上をめざす。</p> <p>ウ. 保護者向けアンケート「学校は、防災や防犯、事故防止に配慮し、施設・設備の点検を行っている。」の肯定的評価 70%以上をめざす。</p> <p>ア. スクールカウンセラーや公認心理師との相談件数 8 件以上をめざす。</p> <p>イ. 保護者向けアンケート「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる。」の肯定的評価 70%以上をめざす。</p> <p>ウ. 保護者向けアンケート「子どもの心身の健康について適切な指導を行っている。」の肯定的評価 70%以上をめざす。</p>	<p>ア. 生徒向けアンケート「学校で事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか、知らされている。」の肯定的評価 65.4%であった。(△)</p> <p>イ. 保護者向けアンケート「地震や台風などの場合の対応については、子どもや保護者に行動マニュアルが知らされている。」の肯定的評価 57.1%であった。(△)</p> <p>ウ. 保護者向けアンケート「学校は、防災や防犯、事故防止に配慮し、施設・設備の点検を行っている。」の肯定的評価 64.3%であった。(△)</p> <p>ア. スクールカウンセラーや公認心理師との相談件数、生徒 4 件、保護者 6 件、合計 10 件。他に心理検査 2 件。(○)</p> <p>イ. 保護者向けアンケート「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる。」の肯定的評価 92.8%であった。(◎)</p> <p>ウ. 保護者向けアンケート「子どもの心身の健康について適切な指導を行っている。」の肯定的評価 89.3%であった。(◎)</p>

# 令和5年度 近畿大阪高等学校学校評価アンケート 評価結果報告書

2023（令和5）年度の学校法人弘徳学園近畿大阪高等学校の教育活動について、関係教職員が行った自己評価の集計結果と分析結果を報告する。

## アンケート内容

近畿大阪高等学校の教育目標等を踏まえ、質問項目は、34問とした。

## アンケート対象者

常勤教員全員8名、事務職員と非常勤教員は対象外とした。

## アンケート回答方法

各質問について、「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：まったくあてはまらない」の4つの選択肢の中から、あてはまるものを回答する方法とした。

## アンケート集計結果と分析結果

### 1 学校運営について

#### 教育活動について

- ① 「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」

回答 (%) A 87.5 B 12.5 C 0 D 0

- ② 「教育課程の編成に当たって、学習指導要領の趣旨が生かされている」

回答 (%) A 75 B 25 C 0 D 0

- ③ 「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」

回答 (%) A 62.5 B 37.5 C 0 D 0

- ④ 「教育活動全般について、生徒や保護者の願いに応えている」

回答 (%) A 62.5 B 37.5 C 0 D 0

#### 教育計画について

- ⑤ 「生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている」

回答 (%) A 75 B 25 C 0 D 0

- ⑥ 「学校運営に教職員の意見が反映されている」

回答 (%) A 62.5 B 37.5 C 0 D 0

- ⑦ 「施設・設備の拡充は、長期的見通しに立って計画されている」

回答 (%) A 12.5 B 75 C 12.5 D 0

#### 教員連携について

- ⑧ 「評価の在り方について、話し合う機会がある」

回答 (%) A 25 B 62.5 C 12.5 D 0

- ⑨ 「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」

回答 (%) A 50 B 50 C 0 D 0

⑩ 「職員会議をはじめ各種会議が、教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」

回答 (%) A 62.5 B 37.5 C 0 D 0

⑪ 「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談し合えるような職場の人間関係ができています」

回答 (%) A 75 B 25 C 0 D 0

#### 危機管理マニュアルについて

⑫ 「危機管理マニュアルに基づき、事故・事件・災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう役割分担が明確化され、訓練内容が精選されている」

回答 (%) A 12.5 B 50 C 37.5 D 0

⑬ 「個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている」

回答 (%) A 50 B 50 C 0 D 0

⑭ 「情報提供の手段としてメールやチャットなどの連絡ツールが活用され、日常的に更新されている」

回答 (%) A 75 B 25 C 0 D 0

⑮ 「学校説明会の内容を精選し、必要な情報を過不足なく丁寧に伝えている」

回答 (%) A 62.5 B 37.5 C 0 D 0

## 2 教育内容について

### 教科指導について

① 「各教科において、生徒が興味・関心を持てるような授業の工夫を行っている」

回答 (%) A 75 B 25 C 0 D 0

② 「指導内容について、教科の枠を超えて話し合う機会がある」

回答 (%) A 62.5 B 37.5 C 0 D 0

③ 「創意工夫を生かした総合的な探究の時間の学習を実施している」

回答 (%) A 50 B 50 C 0 D 0

### 人権教育について

④ 「教育活動において、生徒が命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会をつくるよう配慮している」

回答 (%) A 37.5 B 62.5 C 0 D 0

⑤ 「障がい者理解を深め、ノーマライゼーションの理念に基づく社会を築く資質を養うことができるよう工夫している」

回答 (%) A 37.5 B 62.5 C 0 D 0

⑥ 「固定的な性別役割分担意識を是正し、男女共生意識に基づく社会を築く資質を養うことができるよう工夫している」

回答 (%) A 50 B 50 C 0 D 0

⑦ 「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」

回答 (%) A 87.5 B 12.5 C 0 D 0

⑧ 「在日外国人に対する偏見や差別のない社会をめざして、主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している」

回答 (%) A 12.5 B 75 C 12.5 D 0

情報教育について

- ⑨ 「コンピューター等の IC 機器が、授業などで活用されている」

回答 (%) A 87.5 B 12.5 C 0 D 0

3 生徒支援・生徒指導について

生徒支援について

- ① 「到達度の低い生徒に対する学習指導について工夫している」

回答 (%) A 50 B 50 C 0 D 0

- ② 「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」

回答 (%) A 50 B 50 C 0 D 0

- ③ 「支援が必要と思われる生徒について、教職員全体で情報を共有し、必要な支援を行っている」

回答 (%) A 75 B 25 C 0 D 0

生徒指導について

- ④ 「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」

回答 (%) A 87.5 B 12.5 C 0 D 0

- ⑤ 「生徒指導において家庭との連携ができています」

回答 (%) A 75 B 25 C 0 D 0

- ⑥ 「体罰やセクシャルハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導が行われている」

回答 (%) A 75 B 25 C 0 D 0

4 教職員研修・教職員の資質向上について

教職員研修について

- ① 「人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合っている」

回答 (%) A 62.5 B 37.5 C 0 D 0

- ② 「校内研修組織が確立され、計画的に研修が行われている」

回答 (%) A 25 B 50 C 25 D 0

資質向上について

- ③ 「生徒の実態を踏まえた指導方法の工夫・改善のため、自己研鑽に努めている」

回答 (%) A 62.5 B 37.5 C 0 D 0

- ④ 「教員間で授業方法について検討する機会を積極的に持っている」

回答 (%) A 37.5 B 50 C 12.5 D 0

# 令和5年度 近畿大阪高等学校評価アンケート 総括

2023（令和5）年度の学校法人弘徳学園近畿大阪高等学校の教育活動について、内部構成員の関係教職員が行った自己評価の集計及び分析結果について報告する。

## アンケートの概要

アンケート内容は、学校法人弘徳学園近畿大阪高等学校の教育目標等を踏まえ設定した。なお、質問項目は、別紙の通りである。

アンケートは、常勤教職員8名を対象として、令和6年1月から2月にかけて実施し、全員から回答を得た。

アンケート回答方法は、各質問について「A:よくあてはまる」、「B:ややあてはまる」、「C:あまりあてはまらない」、「D:まったくあてはまらない」の4つの選択肢の中から、あてはまるものを回答する方法とした。

## 集計及び分析結果

全回答結果を肯定的評価（AとB）と否定的評価（CとD）に分けて分析した場合、肯定的評価は、96.3%であった。教職員は、本校の教育内容全般にわたって概ね高い自己評価をしていると考えられる。

以下は、肯定的評価の割合に応じて、個別の質問について分析する。

### 【肯定的評価が100%】

全34問中、1①「教育活動について教員間の情報共有」、②「学習指導要領の活用」、③④「教育活動全般の活用」、⑤「生徒に対するキャリア教育」、⑥「学校運営に関する教職員の意見反映」、⑨「各分掌や学年間の連携」、⑩「職員会議はじめ各種会議の有効活用」、⑪「問題意識や悩みについて話し合える職場の人間関係」、⑬「個人情報に関する管理システムの確立」、⑭「メールやチャットによる連絡ツールの活用」⑮「学校説明会の充実」2①「生徒に興味関心を持たせる授業の工夫」、②「教員間の話し合いによる指導内容の共有」、③「総合的な探究の時間の充実」、④「社会のルールを学ぶ機会の提供」、⑤「ノーマライゼーションの理念に基づく社会を築く資質の涵養」、⑥「男女共生意識に基づく社会を築く資質の涵養」、⑦「教職員間の相互理解と信頼関係の構築」、⑨「IC機器の授業での活用」、3①「到達度の低い生徒への学習指導の工夫」、②「魅力ある学校行事への工夫改善」、③「教職員の情報共有による要支援生徒対応の充実」、④「教育相談体制の充実」、⑤「生徒指導における家庭との連携」、⑥「人権尊重に基づいた生徒指導の充実」、4③「生徒の実態に応じた指導方法の改善のための自己研鑽」の27項目が該当する。これらの項目から全教職員の緊密な連携により連絡・報告・相談体制がしっかりと確立され、本校の大きな特色である生徒一人ひとりに寄り添った暖かい指導が展開されていることがうかがえる。

### 【肯定的評価が80%以上100%未満】

全34問中、1⑦「施設・設備の充実計画」、⑧「評価の在り方についての情報共有」、2⑧「在日外国人に対する偏見や差別解消のための」、4①「人権尊重に関する課題の情報共有」、④「教員間における授業方法の検討」の5項目が該当する。これらの項目から全教職員は生徒個々が抱える多種多様な課題を共有し、丁寧な指導に徹していること。生徒の基本的な人権を尊重し、カウンセリングマインドを持って生徒に対応していると考えられる。否定的評価として、教職員の資質を高めるための研鑽については、一部の教員は十分取り組めていなかったと感じられるが、生徒獲得のために、オープンスクール（学校説明会）や外部会場での合同相談会並びに合同説明会に、全教職員で取り組んだことから、高い自己評価を得たものと考えられる。

### 【肯定的評価が80%未満】

全34問中、1⑫「危機管理マニュアルに基づき、訓練内容が精選されている」、4②「計画的に研修が実施されている」の2項目が該当する。危機管理マニュアルに基づき、訓練内容が精選されている項目が、肯定的な評価が低いのは、全生徒が一堂に会する機会が少ないため十分な避難訓練を実施することができなかったのが原因だと思われる。また計画的な研修が実施されている項目については、開校1年目でもあったため、どのような研修を、いつ行えば効果的であるかが理解できていなかったのが原因であると考えられる。

## 全体を通して

設置認可が年度末になったため、定員を大きく下回る入学生となった（4月1日現在1年生20名・2年生6名）。しかし、生徒一人ひとりに対する思いのこもった全教員の指導が、功を奏したため年度末には、54名（1年生34名・2年生20名）の体制になっ

た。その間、様々な困難にも見舞われたが、学校全体でチームワークを高めることにより乗り切ることができた。また、教職員が通信制高校の理解を深め、生徒に対するバランスの取れた適切な指導により、多くの生徒が履修した単位を修得するに至った。今後も、教職員一人ひとりが自己研鑽を積むことにより、資質を高め、課題を抱えた生徒に対し、より適切な指導をしていくことが重要である。

# 学校教育自己診断票

次の診断内容について、A～Dの該当する欄に○印をつけてください。

分類	評価の観点	番号	診断内容	A よくあてはまる	B ややあてはまる	C あまりあてはまらない	D まったくあてはまらない
学校運営	教育活動	①	学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。				
		②	教育課程の編成に当たって、学習指導要領の趣旨が生かされている。				
		③	教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。				
		④	学校は、教育活動全般について、生徒や保護者の願いにこたえている。				
	教育計画	⑤	この学校では、生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている。				
		⑥	学校運営に教職員の意見が反映されている。				
		⑦	施設・整備の拡充は、長期的見通しに立って計画されている。				
	教員連携	⑧	評価の在り方について、話し合う機会がある。				
		⑨	各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。				
		⑩	職員会議をはじめ各種会議が、教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している。				
		⑪	日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談し合えるような職場の人間関係ができています。				
		⑫	危機管理マニュアルに基づき、事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化され、訓練内容が精選されている。				
		⑬	個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている。				
		⑭	情報提供の手段として、学校のホームページが活用され、日常的に更新されている。				
		⑮	学校説明会の内容を精選し、必要な情報を過不足なく丁寧に伝えている。				
教育内容	教科指導	①	各教科において、生徒が興味・関心を持てるような授業の工夫を行っている。				
		②	指導内容について、他の教科の担当者と話し合う機会がある。				
		③	この学校では、創意工夫を生かした総合的な探究の時間の学習を実施している。				
		④	教育活動において、生徒が命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会をつくるよう配慮している。				
		⑤	障がい者理解を深め、ノーマライゼーションの理念に基づく社会を築く資質を養うことができるよう工夫している。				
		⑥	固定的な性別役割分担意識を是正し、男女共生意識に基づく社会を築く資質を養うことができるよう工夫している。				
		⑦	教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。				
		⑧	在日外国人に対する偏見や差別のない社会をめざして、主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している。				
	情報教育	⑨	コンピューター等のIC機器が、授業などで活用されている。				
生徒指導・支援	生徒指導	①	この学校では、到達度の低い生徒に対する学習指導について、工夫している。				
		②	学校行事が、生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている。				
		③	支援が必要と思われる生徒について、教職員全体で情報を共有し、必要な支援を行っている。				
	生徒支援	④	教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することが出来る。				
		⑤	この学校では、生徒指導において、家庭との連携ができています。				
		⑥	体罰やセクシャル・ハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢にもとづいた生徒指導が行われている。				
教職員の資質向上	教員研修	①	人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合っている。				
		②	校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている。				
	資質向上	③	生徒の実態を踏まえた指導方法の工夫・改善のため、自己研鑽に努めている。				
		④	教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。				

## 学校関係者評価委員会 概要

(名称) 名称を「近畿大阪高等学校関係者評価委員会」とする。

(設置) 近畿大阪高等学校の自己評価結果の客観性・透明性を高め、本校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図るため。

(役割) 委員会は、本校の教育活動及び学校運営状況に関する自己評価結果について、評価・助言を行う。

(評価) 委員会の行う評価は、本校の自己評価結果、校長の諮問事項及び委員会が必要と認めた事項とする。

(構成) 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育分野に関する識見を有する者 1名以上2名以下
- (2) 中学校関係者 1名以上2名以下
- (3) その他校長が必要と認めた者 1名以上2名以下

2 委員の任期は、原則として年度初から年度末までの1年とする。ただし、年度途中で委嘱する場合は、年度末までの任期とする。

(委員長) 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選により選出する。

令和6年度委員（敬称略）

- (1) 教育分野に関する識見を有する者：橋本 眞一（前阪南市教育長）
- (2) 中学校関係者：井上 達史（阪南市立貝掛中学校長）
- (3) その他校長が必要と認めた者：武輪 和美（本校所在地の地域代表）

## 「令和5年度 近畿大阪高等学校学校関係者評価委員会」の意見

### 1. 「1 建学の精神と本校の教育目的」、「2 中期的目標」に関する意見

- ・教育目的にある「社会に貢献する」に関して、生徒自身が社会に関わっているという感覚を持たせることが重要であり、「人と触れ合う」ことを目標として、様々な活動をしている点が評価できる
- ・「社会性の育み」を意識したうえで、「自己実現・自己肯定感・やればできる」「私もできる」「人の役に立っている」を大事にしている点が評価できる

### 2. 「3 本年度の取り組み内容及び自己評価」における「(1)生徒の実態に応じた教育システムを確立する」、「(2)確かな学力を身につけた上で、高校卒業資格を取得できるように支援する」について

- ・担任教員だけでなく、様々な教員が関わっていること、選択授業を生徒自身が選んでいる点が評価できる
- ・生徒と教員が良好な関係性を築けていると推察できる点が評価できる

### 3. 「3 本年度の取り組み内容及び自己評価」における「(3)人権教育等を通して心の教育の充実に努める」、「(4)通学意欲を喚起し、生徒間の親睦並びに相互交流を促す」について

- ・トライアルアワーにより、地域の方々と触れ合える機会を複数設けている点が評価できる
- ・教員からだけでなく、地域からの学びの機会がある点が評価できる
- ・社会性・自主性を育むためには「自分でやらせてあげる・できるように応援してあげる」ことが重要であり、生徒の声を拾いながら、様々な取り組みに繋げる姿勢が評価できる
- ・「仲間意識」は重要であり、教員と生徒の繋がりだけでなく、生徒間の繋がりを意識している点が評価できる
- ・生徒と教員、生徒と生徒が良好な関係性を築けていると推察できる点が評価できる

### 4. 「3 本年度の取り組み内容及び自己評価」における「(5)情報発信・広報活動に充実に努める」、「(6)安心して学校生活を送れるよう最大限の配慮をする」について

- ・通信制高校における防火・防災の周知徹底は難しい側面があると思われるが、重要なテーマであり、トライアルアワーや学園祭などで取り組むことを検討する必要がある
- ・来校している生徒だけでも、避難訓練を実施することや、職員の防災意識向上を検討する必要がある

### 5. 総括

- ・教員が情熱をもって学校づくり、教育に取り組んでいることが伝わり、引き続き生徒の思いや地域の思いをくみ取りながら、取り組みを進めてもらいたい
- ・生徒・保護者アンケートと教員アンケートの項目に関して、同一項目を設定することで、学校と家庭の温度差・感じ方の違いが見えることもあるため、効果的なアンケート項目を検討する必要がある